



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(43) Date of publication of application: 10.08.01

Figure 1 is a block diagram of a video signal processing system. The system is organized into three main processing blocks: 100 (Color Signal Processing), 101 (Alpha Channel Processing), and 102 (Beta Channel Processing). Each block contains a series of processing stages: 100 includes Color Matrix (108), Color Space Conversion (109), Color Gain (110), Color Balance (111), and Color Temperature (112); 101 includes Color Matrix (113), Color Space Conversion (114), Color Gain (115), Color Balance (116), and Color Temperature (117); 102 includes Color Matrix (118), Color Space Conversion (119), Color Gain (120), Color Balance (121), and Color Temperature (122). The system also includes a Color Matrix (105) and a Color Space Conversion (106) block at the input, and a Color Matrix (107) and a Color Space Conversion (108) block at the output.

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
H 0 4 L 12/28		H 0 4 B 7/24	G 5 K 0 3 0
H 0 4 B 7/24		H 0 4 L 11/20	E 5 K 0 3 3
H 0 4 L 12/56		11/00	3 1 0 B 5 K 0 3 4
29/02		11/20	1 0 2 A 5 K 0 6 7
29/10		13/00	3 0 1 B 9 A 0 0 1
審査請求 未請求 請求項の数13 O L (全 23 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2000-20660(P2000-20660)

(22) 出願日 平成12年1月28日 (2000.1.28)

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 大村 正広

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

(74) 代理人 100105050

弁理士 鷲田 公一

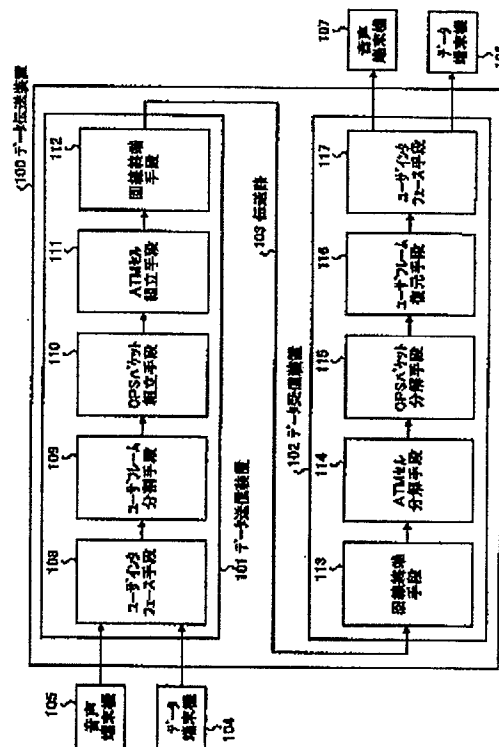
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 データ伝送装置及びデータ伝送方法

(57) 【要約】

【課題】 ユーザフレームにSSTEDトレイラ等の付加情報を付与すること無く伝送し、この伝送データを復元時にユーザフレーム長の異常を検出することが可能なようにすることによって、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐこと。

【解決手段】 データ送信装置101のユーザフレーム分割手段109で、上位レイヤから渡されたユーザフレームを予め規定された分割長に分割すると共に、その分割数を保持し、ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットヘッダのユーザ間表示であるUUIとして、その保持された分割数を用い、また、データ受信装置102のユーザフレーム復元手段116で、ユーザフレーム復元時に、当該ユーザフレームを復元するのに用いたCPSパケット数を計数し、ユーザフレーム組立完了時に、UUIと計数CPSパケット数とを比較し、値が一致しない場合に当該ユーザフレームをフレーム長異常として廃棄する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 上位レイヤから渡されたユーザフレームを予め規定された分割長に分割するユーザフレーム分割処理手段と、前記ユーザフレームの分割数を保持する分割数保持手段と、前記ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットヘッダのユーザ間表示であるUUIとして、前記保持された前記分割数を用いるUUI設定手段と、を具備することを特徴とするユーザフレーム分割装置。

【請求項2】 請求項1記載のユーザフレーム分割装置と、ユーザ回線からのデータを一定時間蓄積してユーザフレームに組み立て、この組み立てられたユーザフレームを前記ユーザフレーム分割装置へ出力するユーザインタフェース手段と、前記ユーザフレーム分割装置から出力される各分割フレームにCPSパケットヘッダを付与してCPSパケットを組み立てるCPSパケット組立手段と、前記組み立てられたCPSパケットをATMセルペイロードに多重してATMセルを組み立てるATMセル組立手段と、前記組み立てられたATMセルを伝送路へ送出する回線終端手段と、を具備することを特徴とするデータ送信装置。

【請求項3】 請求項2記載のデータ送信装置における回線終端手段からのATMセルからCPSパケットペイロード及びこのペイロードに付与されたCPSパケットヘッダ内のUUIを受信し、フレーム復元処理を行うユーザフレーム復元処理手段と、組立途中のユーザフレームをユーザコネクション毎に保持するユーザフレームバッファと、ユーザフレーム長上限値を保持し、復元途中のユーザフレーム長がユーザフレーム長上限値を超過した場合に、当該ユーザフレームを廃棄するユーザフレーム長上限値判定手段と、ユーザフレーム復元処理中に使用する時間を計時するタイマ手段と、タイマ満了値を保持し、タイマ手段がタイマ満了値に達すると当該ユーザコネクションのユーザフレームバッファをクリアするタイマ監視手段と、受信したCPSパケットの数を計数する受信CPSパケット計数手段と、ユーザフレーム組立完了時に、前記受信CPSパケット計数手段の保持する受信CPSパケット数と受信した前記UUIの値とを比較し、一致しない場合に当該ユーザフレームをフレーム長異常とするCPSパケット数比較手段と、を具備することを特徴とするユーザフレーム復元装置。

【請求項4】 CPSパケット数比較手段でユーザフレームのフレーム長異常が検出された際に、当該ユーザフレームを廃棄することを特徴とする請求項3記載のユーザフレーム復元装置。

【請求項5】 請求項3記載のユーザフレーム復元装置と、伝送路からATMセルを受信する回線終端手段と、前記受信したATMセルからCPSパケットを抽出するATMセル分解手段と、前記CPSパケットからCPSパケットペイロードとUUIを抽出し、前記ユーザフレ

ーム復元装置へ出力するCPSパケット分解手段と、前記ユーザフレーム復元装置で復元されたユーザフレームをデジタル信号としてユーザ回線へ出力するユーザインタフェース手段と、を具備することを特徴とするデータ受信装置。

【請求項6】 請求項2記載のデータ送信装置と、請求項5記載のデータ受信装置と、を具備することを特徴とするデータ伝送装置。

【請求項7】 ATMレイヤと上位レイヤとの間のATMアダプテーションレイヤ処理を、請求項1記載のユーザフレーム分割装置及び請求項3記載のユーザフレーム復元装置を用いて行うことを特徴とするATMセル組立及び分解装置。

【請求項8】 無線受信信号を増幅する受信増幅装置と、前記増幅された信号を復調する復調装置と、前記復調された信号を蓄積してフレームを組み立てるフレーム組立装置と、前記フレームからATMセルを組み立てる請求項7記載のATMセル組立装置とを具備する受信処理手段と、ATMセルをフレームに復元する請求項7記載のATMセル分解装置と、前記復元したフレームを分解して信号を抽出するフレーム分解手段と、前記抽出された信号を変調する変調装置と、前記変調された無線送信信号を増幅する送信増幅装置とを具備する送信処理手段と、を具備することを特徴とする無線基地局装置。

【請求項9】 請求項7記載のATMセル組立及び分解装置を備え、請求項8記載の無線基地局装置とATMセルの送受信を行うことを特徴とする無線基地局制御装置。

【請求項10】 請求項8記載の無線基地局装置又は請求項9記載の無線基地局制御装置を具備することを特徴とする移動体通信システム。

【請求項11】 CPSパケットのUUIを決定する際に、ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットのUUIには当該ユーザフレームを搭載するCPSパケット数を用いることを特徴とするユーザフレーム分割方法。

【請求項12】 ユーザフレームを復元する際に、当該ユーザフレームを復元するのに用いたCPSパケット数を計数し、ユーザフレーム組立完了時にユーザフレームの最終データを含んだCPSパケットのUUIと、計数したCPSパケット数とを比較し、値が一致しない場合に当該ユーザフレームをフレーム長異常とすることを特徴とするユーザフレーム復元方法。

【請求項13】 請求項11記載のユーザフレーム分割方法を用いてユーザフレームを分割した後CPSパケットを組み立て、前記CPSパケットをATMセルに多重して送信し、受信した前記ATMセルから前記CPSパケットを抽出し、前記CPSパケットから請求項12記載のユーザフレーム復元方法を用いて前記ユーザフレームを復元することを特徴とするデータ伝送方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、高速データ及び音声等の低速データを非同期転送モード(ATM)で伝送するものであり、移動体通信システムにおける基地局装置や基地局制御装置に用いて好適なデータ伝送装置及びデータ伝送方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年の通信網においては、音声トラヒックはもとより、画像通信、データ通信などの高速トラヒックが急増しており、多種のトラヒックに対応した大容量通信網の整備が大きな課題となっている。

【0003】ITU-T(International Telecommunication Union-Telecommunication Standardization Sector)では、多種のトラヒックを高速かつ柔軟に伝送するための手段として、ATM(Asynchronous Transfer Mode)ネットワーク技術の標準化を進めている。

【0004】ATMネットワーク技術の標準化においては、ATMレイヤと上位レイヤとの間のAAL(ATM Adaptation Layer)の標準化も進められており、可変速度符号化された音声などを、低遅延かつ高能率で伝送するサービスクラス用のAALタイプ2の標準化が既に行われている。

【0005】AALタイプ2は、VC(Virtual Channel)コネクションに複数のユーザコネクションを多重搭載して転送することを特徴としている。これにより高能率符号化音声(1フレームが45オクテット以下のユーザフレーム)などの低速度サービスを低遅延かつ高い伝送路効率で転送することが可能となる。音声が主要トラヒックである移動体通信との親和性に優れ、移動体通信分野における速やかな導入および普及が期待される。

【0006】更に、近年増加している画像通信、データ通信などの高速トラヒックに対応するため、1フレームが45オクテットより長いユーザフレームを、AALタイプ2で伝送するための方式が標準化されている(ITU-T勧告I.366.1 Segmentation and Reassembly Service Specific Convergence Sublayer for the AAL Type 2)。

【0007】ここで、AALタイプ2のレイヤ構成を図6に示す。図6に示すように、AALタイプ2の高速データ側は、2つのサブレイヤに分離されている。これらのサブレイヤのうち、高位はサービス依存部コンパジェンス・サブレイヤ(以後、SSCS)、下位はAALタイプ2のコア部である共通部サブレイヤ(以後、CPS)である。

【0008】更に、SSCSは、サービス依存分割組立レイヤ(以後、SSSAR)、サービス依存エラー検出レイヤ(以後SSTED)、サービス依存データ伝送保証レイヤ(以後SSADT)の3つのサブレイヤに分離され

ており、SSCS適用時にSSTED及びSSADTを使用するか否かはユーザの判断によるものとなっている。

【0009】ここで、データ通信のユーザフレームを、AALタイプ2のSSTED及びSSSARを適用してCPSパケットに組み立てるまでのフレームフォーマット遷移を図7に示す。この図7において、701はユーザフレームを示しており、702はユーザフレームにSSTEDトレイラを付与した状態を示しており、703は前記702のフレームを分割して組み立てたCPSパケットを示している。

【0010】この種のデータ伝送方法としては、国際公開番号WO98/29987号公報に記載されているものがある。

【0011】図8は、従来のデータ伝送装置の構成を示すブロック図である。

【0012】この図8に示すデータ伝送装置800は、データ送信装置801と、データ受信装置802と、データ送信装置801及びデータ受信装置802を接続する伝送路803とを備えて構成されており、データ送信装置801には、データ端末機804及び音声端末機805が接続され、データ受信装置802には、データ端末機806及び音声端末機807が接続されている。

【0013】データ送信装置801は、ユーザインタフェース手段808と、ユーザフレーム分割手段809と、CPSパケット組立手段810と、ATMセル組立手段811と、回線終端手段812を備えて構成されている。

【0014】データ受信装置802は、回線終端手段813と、ATMセル分解手段814と、CPSパケット分解手段815と、ユーザフレーム復元手段816と、ユーザインタフェース手段817を備えて構成されている。

【0015】ユーザインタフェース手段808は、データ端末機804又は音声端末機805からユーザ回線を介してディジタル信号を受信し、一定時間に受信するデータを蓄積しユーザフレームに組み立てるものである。

【0016】ユーザフレーム分割手段809は、SSCSの処理を実現するもので、受信するユーザフレームを分割してCPSパケットペイロードとし、同時にCPSパケットヘッダに付与するユーザ間表示(以後UUI、5ビット)を決定するものである。

【0017】CPSパケット組立手段810は、ユーザフレーム分割手段809からの受信データにCPSパケットヘッダを付与してCPSパケットを組み立てるものである。

【0018】CPSパケットのフォーマットを図7に符号705で示す。このCPSパケットヘッダ705は、チャンネル識別子(以後CID、1オクテット)、情報長識別子(以後LI、6ビット)、UUI、HEC(5ビ

ット)、の各フィールドから構成される。

【0019】ATMセル組立手段811は、CPSパケットをATMセルペイロードに多重してATMセルを組み立てるものである。ここで、CPSパケットをATMセルペイロードに多重及び分離する方法の一つとしては、ITU-T勧告I.363.2に示される方法が想定される。

【0020】ATMセル分解装置814は、回線終端手段813で受信したATMセルからCPSパケットを抽出するものである。

【0021】CPSパケット分解手段815は、CPSパケットからユーザフレームデータを抽出するものである。

【0022】ユーザフレーム復元手段816は、SSCSの機能を実現するもので、分割されたユーザフレームを復元するものである。

【0023】ユーザインタフェース手段817は、ユーザフレームをデジタル信号とし、ユーザ回線を介してデータ端末機806又は音声端末機807へ送信するものである。

【0024】ここで、図9を参照してユーザフレーム分割手段809の構成を説明する。なお、本例ではSSCSレイヤのうちSSTED及びSSSARを適用する場合を例として説明する。なお、以下に示すSSTEDに関連する処理は、ユーザの設定によって適用しないことも可能である。

【0025】ユーザフレーム分割手段809は、SSTEDトレイラ付与手段901と、ユーザフレーム分割処理手段902と、ユーザフレーム長判定手段903と、UUI設定手段904とを備えて構成されている。

【0026】SSTEDトレイラ付与手段901は、ITU-T勧告I.366.1/Figure 12に基づきSSTED処理を行うものである。ユーザフレームにSSTEDトレイラを付与する処理を行う。このSSTEDトレイラのフォーマットを図7に符号704で示す。SSTEDトレイラ704は、SSTEDユーザ間表示(以後SSTED-UU.1オクテット)、予約領域(以後Reserved.6ビット)、輻輳表示(以後CI.1ビット)、損失優先度(以後LP.1ビット)、レングス(以後LI.2オクテット)、CRC(ユーザフレーム+CRCフィールドを除くSSTEDトレイラに対するCRC演算結果.4オクテット)、の各フィールドから構成する。

【0027】ユーザフレーム分割処理手段902は、ITU-T勧告I.366.1/Figure 7に基づきSSSAR処理を行うものである。ユーザフレーム(SSTEDトレイラ付与時はSSTEDトレイラを含む)を45オクテット以下に分割し、分割したフレームとUUI設定手段904にて決定したUUIをCPSパケット組立手段810へ出力する。

【0028】ユーザフレーム長判定手段903は、残りのユーザフレーム(SSTEDトレイラ付与時はSSTEDトレイラを含む)の長さを保持するものである。

【0029】UUI設定手段804は、CPSパケットヘッダに設定するパラメータであるUUIの値を決定し、フレーム分割手段902に通知するものである。

【0030】ここで、図10を参照してユーザフレーム復元手段816の構成を説明する。なお、本例ではSSCSレイヤのうちSSTED及びSSSARを適用する場合を例として説明する。

【0031】ユーザフレーム復元手段816は、ユーザフレーム復元処理手段1001と、ユーザフレームバッファ1003と、ユーザフレーム長上限値判定手段1004と、SSTED処理手段1005と、タイマ手段1006と、タイマ監視手段1007とを備えて構成されている。

【0032】ユーザフレーム復元処理手段1001は、CPSパケット分解手段815からCPSパケットペイロードとUUIを受信し、ITU-T勧告I.366.1/Figure 9に基づいてユーザフレームの復元処理をするものである。

【0033】ユーザフレームバッファ1003は、復元途中のユーザフレームを格納するバッファであり、ユーザコネクション毎に設ける。本例においては1ユーザコネクションのみの場合を想定し、1バッファのみ設ける。

【0034】ユーザフレーム長上限値判定手段1004は、予め設定されるユーザフレーム長上限値を保持し、復元途中のユーザフレーム長がユーザフレーム長上限値を超過した場合に、ユーザフレームバッファ1003をクリアするものである。

【0035】SSTED処理手段1005は、ITU-T勧告I.366.1/Figure 7に基づいてSSTEDの処理を行うものである。SSTEDトレイラのパラメータを用いて、ユーザフレーム長検査、ビット誤り検査等を行い、異常を検出した時にはユーザフレームを廃棄する。また、異常を検出しなかった時にはユーザインタフェース手段817にユーザフレームを出力する。

【0036】タイマ手段1006は、ユーザフレーム復元処理中に使用する時間を管理するタイマであり、ユーザコネクション毎に設定される。本例においては1ユーザコネクションのみの場合を想定し、1タイマのみ設ける。

【0037】タイマ監視手段1007は、予め設定されるタイマ満了値を保持し、タイマ手段1006がタイマ満了値に達すると当該ユーザコネクションのユーザフレームバッファ1003をクリアするものであり、タイマ毎に設定される。本例においては1タイマのみの場合を想定し、1タイマ監視手段のみ設ける。

【0038】次に、ユーザフレーム分割手段809の動作を図11を参照し、ユーザフレーム復元手段816の動作を図12を参照して説明する。但し、図11は従来のユーザフレーム分割手段809の動作を説明するためのフロー図、図12はユーザフレーム復元手段816の動作を説明するためのフロー図である。

【0039】最初に、図8に示すデータ送信装置801において、ユーザインタフェース手段808が、ユーザ回線を介してデータ端末機804又は音声端末機805が送信するデジタル信号を受信し、一定時間の受信データをユーザフレームに組み立てる。この時、音声のユーザフレームはCPSパケット組立手段810へ出力し、データのユーザフレームはユーザフレーム分割手段809へ出力する。

【0040】ユーザフレーム分割手段809において、SSTEDトレイラ付与手段901が、受信したユーザフレームにSSTEDトレイラを付与して、ユーザフレーム分割処理手段902へ出力する。これと同時にUUI=26をユーザフレーム分割処理手段802へ出力する。

【0041】SSTEDトレイラには、ユーザフレーム長をLIフィールドに、CRC演算結果をCRCフィールドに、その他のフィールドには上位レイヤから通知される値を設定する。

【0042】この後、ユーザフレーム分割手段809が、図11に示す処理動作を行う。

【0043】まず、ユーザフレーム分割処理手段902は、ステップST1101において、ユーザフレームを受信すると、ステップST1102において、ユーザフレーム長が予め設定されたフレーム分割長を超過していないかを判定する。

【0044】この判定の結果、超過している場合、ステップST1103において、UUI設定手段904は、UUI=27をユーザフレーム分割処理手段902に通知し、ステップST1104において、ユーザフレーム分割処理手段902が、通知されたUUIとユーザフレーム分割長分のユーザフレームをCPSパケット組立手段810へ出力する。この出力後は、ステップST1102から同様に処理を行う。

【0045】一方、ステップST1102における判定の結果、ユーザフレーム長がフレーム分割長を超過していない場合、UUI設定手段904が、ステップST1105において、SSTEDトレイラ付与手段901からUUIが通知されている場合は、ステップST1106において、通知されたUUI(I.366.1によりSSTED適用時は26に規定されている)を、ユーザフレーム分割処理手段902に通知する。

【0046】一方、ステップST1105において、SSTEDトレイラ付与手段901からUUIが通知されていない場合は、ステップST1107において、0～

25の範囲で任意の値をユーザフレーム分割処理手段902に通知する。

【0047】その後、ステップST1108において、ユーザフレーム分割処理手段902が、通知されたUUIと残りのユーザフレームをCPSパケット組立手段810へ出力し、本処理を終了する。

【0048】CPSパケット組立手段810は、ユーザフレーム分割手段809から受信したCPSパケットペイロードにCPSパケットヘッダを付与し、CPSパケットを組み立てる。

【0049】CPSパケットヘッダのUUIには、データフレーム分割手段809から受信したUUIを設定する。また、LIには、受信したCPSパケットペイロードより1小さい値を設定する。また、HECには、HEC演算結果を設定する。CIDは、8～255の範囲でユーザコネクション毎に固定値を付与する。

【0050】その後、ATMセル組立手段811で、ATMセルを組み立てて生成し、回線終端手段812から伝送路803を介してデータ受信装置802の回線終端手段813へATMセルを伝送する。

【0051】データ受信装置802において、回線終端手段813は、受信したATMセルをATMセル分解手段814へ出力し、ATMセル分解手段814は、ATMセルペイロードからCPSパケットを抽出し、CPSパケット分解手段815へ出力する。

【0052】CPSパケット分解手段815は、音声用コネクションのCPSパケットを受信した場合には、CPSパケットペイロードをユーザインタフェース手段へ出力する。一方、データ用コネクションのCPSパケットを受信した場合には、CPSパケットペイロード及びUUIをユーザフレーム復元手段816へ出力する。

【0053】この後、ユーザフレーム復元手段816が、図12に示す処理動作を行う。

【0054】まず、ステップST1201において、ユーザフレーム復元処理手段1001は、CPSパケット分解手段815からCPSパケットペイロード、UUIを受信する。

【0055】このとき、ステップST1202において、ユーザフレームバッファ1003にデータが無ければタイマ手段1006を起動する。

【0056】次にステップST1203において、ユーザフレーム長上限値判定手段1004は、現在ユーザフレームバッファ1003に蓄積されているユーザフレーム長とユーザフレーム復元処理手段1001に受信されたCPSパケットペイロード長を加算した合計が、ユーザフレーム長上限値判定手段1004が予め保持しているユーザフレーム上限値を超過していないかを判定する。

【0057】ユーザフレーム長上限値を超過していない場合、ステップST1204において、CPSパケットペイロードをユーザフレームバッファ1003にコピー

する。

【0058】次に、ステップST1205において、ユーザフレーム復元処理手段1001は、受信したUUIが27であるか否かを判定する。UUIが27の場合、ステップST1206において、次のCPSパケットペイロード受信を待ち、再びステップST1201以降の処理を行う。

【0059】一方、UUIが27以外(0~26)の場合、ステップST1207において、ユーザフレーム復元処理手段1001は、ユーザフレームバッファ1003内のユーザフレームをSSTED処理手段1005(UUI=26の場合)又はインタフェース処理手段817(UUI=0~25の場合)へ出力した後、ステップST1208において、タイマ手段1006をリセットする。

【0060】一方、ステップST1203において、ユーザフレーム長上限値を超過していた場合、ユーザフレーム復元手段1001は、ステップST1209において、タイマ手段1006をリセットして再起動する。

【0061】現在ユーザフレームバッファ1003にあるデータは、ステップST1210において、タイマ監視処理部1007がタイマ満了を検出して廃棄、又はステップST1211において、ユーザフレーム復元手段1001がUUI=27以外のCPSパケットペイロード受信時に廃棄する。

【0062】ステップST1211を実行した場合は、ユーザフレーム復元手段1001は、ステップST1208においてタイマ手段1006をリセットする。

【0063】SSTED処理手段1005は、SSTEDトレイラ内のLIを用いてユーザフレーム長検査、CRCを用いてbit誤り検査をおこない、異常を検出した場合そのユーザフレームを廃棄する。異常を検出なかった場合は、ユーザフレームからSSTEDトレイラを削除してユーザインタフェース手段817へ出力する。

【0064】ユーザインタフェース手段817は、ユーザフレームを受信した後、ユーザフレームからデジタル信号を抽出し、ユーザ回線を介してデータ端末機806又は音声端末機807へ送信する。

【0065】以上説明したように、従来のデータ伝送装置800では、データ受信装置802で復元したユーザフレーム長が分割前のユーザフレーム長超過した場合には、ユーザフレーム長上限値超過処理(ST1209~ST1211)によって異常長ユーザフレームを廃棄することが可能である。一方、分割前のユーザフレームより短いユーザフレームが完成した場合においてもSSTED処理によって廃棄が可能である。

【0066】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の装置においては、データ受信装置802のユーザフレーム

ム復元手段816において、復元したユーザフレーム長が分割前のユーザフレーム長より短いことを検出するためには、固定長である8オクテットのSSTEDトレイラ704を付与する必要がある。

【0067】このように付与を行った場合、SSTEDトレイラ704が固定長であるため、ユーザフレーム全体の長さが短い場合は、そのSSTEDトレイラ704がユーザフレームを占有しすぎるので、言い換えればSSTEDトレイラ704の占める割合が大きくなるので、その分、ユーザデータの使用可能な部分が小さくなり、これによってユーザデータの伝送効率が低下するという問題がある。

【0068】本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、ユーザフレームにSSTEDトレイラ等の付加情報を付与すること無く伝送し、この伝送データを復元時にユーザフレーム長の異常を検出することが可能なようにすることによって、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができるデータ伝送装置及びデータ伝送方法を提供することを目的とする。

【0069】

【課題を解決するための手段】本発明のユーザフレーム分割装置は、上位レイヤから渡されたユーザフレームを予め規定された分割長に分割するユーザフレーム分割処理手段と、前記ユーザフレームの分割数を保持する分割数保持手段と、前記ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットヘッダのユーザ間表示であるUUIとして、前記保持された前記分割数を用いるUUI設定手段と、を具備する構成を採る。

【0070】この構成によれば、ユーザフレームに誤り検出用の付加情報を付与すること無く復元したユーザフレーム長の異常を検出するための手段を提供することができ、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができる。

【0071】本発明のデータ送信装置は、上記構成のユーザフレーム分割装置と、ユーザ回線からのデータを一定時間蓄積してユーザフレームに組み立て、この組み立てられたユーザフレームを前記ユーザフレーム分割装置へ出力するユーザインタフェース手段と、前記ユーザフレーム分割装置から出力される各分割フレームにCPSパケットヘッダを付与してCPSパケットを組み立てるCPSパケット組立手段と、前記組み立てられたCPSパケットをATMセルペイロードに多重してATMセルを組み立てるATMセル組立手段と、前記組み立てられたATMセルを伝送路へ送出する回線終端手段と、を具備する構成を採る。

【0072】この構成によれば、データ送信装置においても上記構成のユーザフレーム分割装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0073】本発明のユーザフレーム復元装置は、上記構成のデータ送信装置における回線終端手段からのAT

MセルからCPSパケットペイロード及びこのペイロードに付与されたCPSパケットヘッダ内のUUIを受信し、フレーム復元処理を行うユーザフレーム復元処理手段と、組立途中のユーザフレームをユーザコネクション毎に保持するユーザフレームバッファと、ユーザフレーム長上限値を保持し、復元途中のユーザフレーム長がユーザフレーム長上限値を超過した場合に、当該ユーザフレームを廃棄するユーザフレーム長上限値判定手段と、ユーザフレーム復元処理中に使用する時間を計時するタイマ手段と、タイマ満了値を保持し、タイマ手段がタイマ満了値に達すると当該ユーザコネクションのユーザフレームバッファをクリアするタイマ監視手段と、受信したCPSパケットの数を計数する受信CPSパケット計数手段と、ユーザフレーム組立完了時に、前記受信CPSパケット計数手段の保持する受信CPSパケット数と受信した前記UUIの値とを比較し、一致しない場合に当該ユーザフレームをフレーム長異常とするCPSパケット数比較手段と、を具備する構成を採る。

【0074】この構成によれば、ユーザフレームに誤り検出用の付加情報を付与すること無く復元したユーザフレーム長の異常を検出することができ、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができる。

【0075】本発明のユーザフレーム復元装置は、上記構成において、CPSパケット数比較手段でユーザフレームのフレーム長異常が検出された際に、当該ユーザフレームを廃棄する構成を採る。

【0076】この構成によれば、上位レイヤに異常長ユーザフレームを出力しないことにより上位レイヤにおける処理の低減と、上位レイヤ間の余分なトラヒックの抑制効果を得ることができる。

【0077】本発明のデータ受信装置は、上記構成のユーザフレーム復元装置と、伝送路からATMセルを受信する回線終端手段と、前記受信したATMセルからCPSパケットを抽出するATMセル分解手段と、前記CPSパケットからCPSパケットペイロードとUUIを抽出し、前記ユーザフレーム復元装置へ出力するCPSパケット分解手段と、前記ユーザフレーム復元装置で復元されたユーザフレームをデジタル信号としてユーザ回線へ出力するユーザインタフェース手段と、を具備する構成を採る。

【0078】この構成によれば、データ受信装置においても上記構成のユーザフレーム復元装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0079】本発明のデータ伝送装置は、上記構成のデータ送信装置と、上記構成のデータ受信装置と、を具備する構成を採る。

【0080】この構成によれば、データ伝送装置においても上記構成のデータ送信装置及びデータ受信装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0081】本発明のATMセル組立及び分解装置は、

ATMレイヤと上位レイヤとの間のATMアダプテーションレイヤ処理を、上記構成のユーザフレーム分割装置及び上記構成のユーザフレーム復元装置を用いて行う構成を採る。

【0082】この構成によれば、ATMセル組立及び分解装置においても上記構成のユーザフレーム分割装置及びユーザフレーム復元装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0083】本発明の無線基地局装置は、無線受信信号を増幅する受信増幅装置と、前記増幅された信号を復調する復調装置と、前記復調された信号を蓄積してフレームを組み立てるフレーム組立装置と、前記フレームからATMセルを組み立てる上記構成のATMセル組立装置とを具備する受信処理手段と、ATMセルをフレームに復元する上記構成のATMセル分解装置と、前記復元したフレームを分解して信号を抽出するフレーム分解手段と、前記抽出された信号を変調する変調装置と、前記変調された無線送信信号を増幅する送信増幅装置とを具備する構成を採る。

【0084】この構成によれば、無線基地局装置においても上記構成のATMセル組立及び分解装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0085】本発明の無線基地局制御装置は、上記構成のATMセル組立及び分解装置を備え、上記構成の無線基地局装置とATMセルの送受信を行う構成を採る。

【0086】この構成によれば、無線基地局制御装置においても上記構成のATMセル組立及び分解装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0087】本発明の移動体通信システムは、上記構成の無線基地局装置又は上記構成の無線基地局制御装置を具備する構成を採る。

【0088】この構成によれば、移動体通信システムにおいても上記構成の無線基地局装置又は無線基地局制御装置と同様の作用効果を得ることができる。

【0089】本発明のユーザフレーム分割方法は、CPSパケットのUUIを決定する際に、ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットのUUIには当該ユーザフレームを搭載するCPSパケット数を用いるようにした。

【0090】この方法によれば、ユーザフレームに誤り検出用の付加情報を付与すること無く復元したユーザフレーム長の異常を検出するための方法を提供することができ、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができる。

【0091】本発明のユーザフレーム復元方法は、ユーザフレームを復元する際に、当該ユーザフレームを復元するのに用いたCPSパケット数を計数し、ユーザフレーム組立完了時にユーザフレームの最終データを含んだCPSパケットのUUIと、計数したCPSパケット数とを比較し、値が一致しない場合に当該ユーザフレーム

をフレーム長異常とするようにした。

【0092】この方法によれば、ユーザフレームに誤り検出用の付加情報を付与すること無く復元したユーザフレーム長の異常を検出することができ、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができる。

【0093】本発明のデータ伝送方法は、上記構成のユーザフレーム分割方法を用いてユーザフレームを分割した後CPSパケットを組み立て、前記CPSパケットをATMセルに多重して送信し、受信した前記ATMセルから前記CPSパケットを抽出し、前記CPSパケットから上記構成のユーザフレーム復元方法を用いて前記ユーザフレームを復元するようにした。

【0094】この方法によれば、セル伝送方法においても上記のユーザフレーム分割方法及びユーザフレーム復元方法と同様の作用効果を得ることができる。

【0095】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

【0096】（実施の形態）図1は、本発明の実施の形態に係るデータ伝送装置の構成を示すブロック図である。

【0097】この図1に示すデータ伝送装置100は、データ送信装置101と、データ受信装置102と、データ送信装置101及びデータ受信装置102を接続する伝送路103とを備えて構成されており、データ送信装置101には、データ端末機104及び音声端末機105が接続され、データ受信装置102には、データ端末機106及び音声端末機107が接続されている。

【0098】データ送信装置101は、ユーザインタフェース手段108と、本実施の形態の特徴要素であるユーザフレーム分割手段109と、CPSパケット組立手段110と、ATMセル組立手段111と、回線終端手段112を備えて構成されている。

【0099】データ受信装置102は、回線終端手段113と、ATMセル分解手段114と、CPSパケット分解手段115と、本実施の形態の特徴要素であるユーザフレーム復元手段116と、ユーザインタフェース手段117を備えて構成されている。

【0100】ユーザインタフェース手段108は、データ端末機104又は音声端末機105からユーザ回線を介してデジタル信号を受信し、一定時間に受信するデータを蓄積しユーザフレームに組み立てるものである。

【0101】ユーザフレーム分割手段109は、SSC Sの処理を実現するもので、受信するユーザフレームを分割してCPSパケットペイロードとし、同時にCPSパケットヘッダに付与するUUIを決定するものである。UUI設定方法については後述で詳細に説明する。

【0102】CPSパケット組立手段110は、ユーザフレーム分割手段109からの受信データにCPSパケットヘッダを付与してCPSパケットを組み立てるもの

である。

【0103】CPSパケットのフォーマットを図7に符号705で示す。このCPSパケットヘッダ705は、チャンネル識別子（以後CID。1オクテット）、情報長識別子（以後LI。6ビット）、UUI、HEC（5ビット）、の各フィールドから構成される。

【0104】ATMセル組立手段111は、CPSパケットをATMセルペイロードに多重してATMセルを組み立てるものである。ここで、CPSパケットをATMセルペイロードに多重及び分離する方法の一つとしては、ITU-T勧告I.363.2に示される方法が想定される。

【0105】ATMセル分解装置114は、回線終端手段113で受信したATMセルからCPSパケットを抽出するものである。

【0106】CPSパケット分解手段115は、CPSパケットからユーザフレームデータを抽出するものである。

【0107】ユーザフレーム復元手段116は、SSC Sの機能を実現するもので、分割されたユーザフレームを復元するものである。また、復元したユーザフレーム長が異常の場合、それを検出するものである。検出方法については後述で詳細に説明する。

【0108】ユーザインタフェース手段117は、ユーザフレームをデジタル信号とし、ユーザ回線を介してデータ端末機106又は音声端末機107へ送信するものである。

【0109】また、ユーザフレーム分割手段109は、図2に示すように、SSTEDトレイラ付与手段201と、ユーザフレーム分割処理手段202と、ユーザフレーム長判定手段203と、UUI設定手段204と、分割数保持手段205とを備えて構成されている。

【0110】SSTEDトレイラ付与手段201は、ITU-T勧告I.366.1/FIGURE12に基づきSSTED処理を行うものである。ユーザフレームにSSTEDトレイラを付与する処理を行う。このSSTEDトレイラのフォーマットを図7に符号704で示す。SSTEDトレイラ704は、SSTEDユーザ間表示（以後SSTED-UU。1オクテット）、予約領域（以後Reserved。6ビット）、輻輳表示（以後CI。1ビット）、損失優先度（以後LP。1ビット）、レングス（以後LI。2オクテット）、CRC（ユーザフレーム+CRCフィールドを除くSSTEDトレイラに対するCRC演算結果。4オクテット）、の各フィールドから構成する。

【0111】ユーザフレーム分割処理手段202は、ITU-T勧告I.366.1/FIGURE7に基づきSSAR処理を行うものである。ユーザフレーム（SSTEDトレイラ付与時はSSTEDトレイラを含む）を45オクテット以下に分割し、分割したフレーム

とUUI設定手段204にて決定したUUIをCPSパケット組立手段110へ出力する。

【0112】ユーザフレーム長判定手段203は、残りのユーザフレーム(SSTEDトレイラ付与時はSSTEDトレイラを含む)の長さを保持するものである。

【0113】分割数保持手段205は、1ユーザフレームの分割数を保持するカウンタであり、初期値は0で1ユーザフレーム分割完了毎に0にリセットされるようになっている。

【0114】UUI設定手段204は、分割数保持手段205に保持される1ユーザフレームの分割数を参照してUUIを決定し、ユーザフレーム分割処理手段202に通知するものである。

【0115】また、ユーザフレーム復元手段116は、図3に示すように、ユーザフレーム復元処理手段301と、ユーザフレームバッファ303と、ユーザフレーム長上限値判定手段304と、SSTED処理手段305と、タイマ手段306と、タイマ監視手段307と、受信CPSパケット計数手段308と、CPSパケット数比較手段309とを備えて構成されている。

【0116】ユーザフレーム復元処理手段301は、CPSパケット分解手段115からCPSパケットペイロードとUUIを受信し、ITU-T勧告I. 366. 1/Figure 9に基づいてユーザフレームの復元処理をするものである。

【0117】ユーザフレームバッファ303は、復元途中のユーザフレームを格納するバッファであり、ユーザコネクション毎に設ける。本例においては1ユーザコネクションのみの場合を想定し、1バッファのみ設ける。

【0118】ユーザフレーム長上限値判定手段304は、予め設定されるユーザフレーム長上限値を保持し、復元途中のユーザフレーム長がユーザフレーム長上限値を超過した場合に、ユーザフレームバッファ303をクリアするものである。

【0119】SSTED処理手段305は、ITU-T勧告I. 366. 1/Figure 7に基づいてSSTEDの処理を行うものである。SSTEDトレイラのパラメータを用いて、ユーザフレーム長検査、ビット誤り検査等を行い、異常を検出した時にはユーザフレームを廃棄する。また、異常を検出しなかった時にはユーザ

【0120】タイマ手段306は、ユーザフレーム復元処理中に使用する時間を管理するタイマであり、ユーザコネクション毎に設定される。本例においては1ユーザコネクションのみの場合を想定し、1タイマのみ設ける。

【0121】タイマ監視手段307は、予め設定されるタイマ満了値を保持し、タイマ手段306がタイマ満了値に達すると当該ユーザコネクションのユーザフレーム

バッファ303をクリアするものであり、タイマ毎に設定される。本例においては1タイマのみの場合を想定し、1タイマ監視手段のみ設ける。

【0122】受信CPSパケット計数手段308は、受信したCPSパケット数を保持するものである。受信CPSパケット数は、1ユーザフレームが完成する毎に0にリセットする。

【0123】CPSパケット数比較手段309は、ユーザフレーム組立完了時に、受信CPSパケット計数手段308の保持する受信CPSパケット数と受信したUUI値を比較し、一致しない場合には当該ユーザフレームをフレーム長異常とするものである。判定方法は後述で詳細に説明する。

【0124】次に、ユーザフレーム分割手段109の動作を図4を参照し、ユーザフレーム復元手段116の動作を図5を参照して説明する。但し、図4は本発明のユーザフレーム分割手段109の動作を説明するためのフロー図、図5はユーザフレーム復元手段116の動作を説明するためのフロー図である。

【0125】最初に、図1に示すデータ送信装置101において、ユーザインタフェース手段108が、ユーザ回線を介してデータ端末機104又は音声端末機105が送信するデジタル信号を受信し、一定時間の受信データをユーザフレームに組み立てる。この時、音声のユーザフレームはCPSパケット組立手段110へ出力し、データのユーザフレームはユーザフレーム分割手段109へ出力する。

【0126】ユーザフレーム分割手段109において、SSTEDトレイラ付与手段101が、受信したユーザフレームにSSTEDトレイラを付与して、ユーザフレーム分割処理手段102へ出力する。同時にUUI=26をユーザフレーム分割処理手段102へ出力する。SSTEDトレイラにはユーザフレーム長をLIフィールドに、CRC演算結果をCRCフィールドに、その他のフィールドには上位レイヤから通知される値を設定する。

【0127】この後、ユーザフレーム分割手段109が、図4に示す処理動作を行う。

【0128】まず、ステップST401において、ユーザフレームを受信すると、ステップST402において、ユーザフレーム長が予め設定されたフレーム分割長を超過していないか判定する。

【0129】この判定結果、超過している場合、ステップST403において、UUI設定手段104は、UUI=27をユーザフレーム分割処理手段202に通知する。ユーザフレーム分割処理手段202は、ステップST404において、通知されたUUIとユーザフレーム分割長分のユーザフレームとを、CPSパケット組立手段110へ出力した後、ステップST405において、分割数保持手段205のカウンタをインクリメントす

る。出力後はステップST402から同様に処理を行う。

【0130】一方、ステップST402における判定の結果、ユーザフレーム長がフレーム分割長を超過していない場合、UUI設定手段204は、ステップST406において、SSTEDトレイラ付与手段201からUUIが通知されている場合は、ステップST407において、通知されたUUI（1.366.1によりSSTED適用時は26に規定されている。）をユーザフレーム分割処理手段202に通知する。

【0131】一方、ステップST406において、SSTEDトレイラ付与手段201からUUIが通知されていない場合は、ステップST408において、分割数保持手段205のカウンタをインクリメントする。

【0132】その後、ステップST409において、分割数保持手段205のカウンタの値を参照し、カウンタの値が25より大きいかなかを判定する。25より大きい場合、UUI設定手段はステップST410において、UUI=0をユーザフレーム分割処理手段202に通知する。

【0133】一方、カウンタの値が25以下の場合、UUI設定手段はステップST411において、UUI=分割数保持手段205のカウンタ値をユーザフレーム分割処理手段202に通知する。その後ステップST412において、フレーム分割手段202は通知されたUUIと残りのユーザフレームをCPSパケット組立手段110へ出力した後、ステップST413において、分割数保持手段205のカウンタを0にリセットして、本処理を終了する。

【0134】CPSパケット組立手段110は、ユーザフレーム分割手段109から受信したCPSパケットペイロードにCPSパケットヘッダを付与し、CPSパケットを組み立てる。

【0135】CPSパケットヘッダのUUIには、データフレーム分割処理709から受信したUUIを設定する。また、LIには受信したCPSパケットペイロードより1小さい値を設定する。また、HECにはHEC演算結果を設定する。CIDは8～255の範囲でユーザコネクション毎に固定値を付与する。

【0136】その後、ATMセル組立手段111でATMセルを生成し、回線終端手段112から伝送路103を介してデータ受信装置102の回線終端手段113へATMセルを伝送する。

【0137】データ受信装置102において、回線終端手段113は受信したATMセルをATMセル分解手段114へ出力し、ATMセル分解手段114は、ATMセルペイロードからCPSパケットを抽出し、CPSパケット分解手段115へ出力する。

【0138】CPSパケット分解手段115は、音声用コネクションのCPSパケットを受信した場合には、C

PSパケットペイロードをユーザインタフェース手段へ出力する。一方、データ用コネクションのCPSパケットを受信した場合には、CPSパケットペイロード及びUUIをユーザフレーム復元手段116へ出力する。

【0139】この後、ユーザフレーム復元手段116が、図5に示す処理動作を行う。

【0140】まず、ステップST501において、ユーザフレーム復元処理手段301は、CPSパケット分解手段115からCPSパケットペイロード、UUIを受信し、受信CPSパケット計数手段308のカウンタをインクリメントする。

【0141】このとき、ステップST502において、ユーザフレームバッファ303にデータが無ければタイマ手段306を起動する。次にステップST503において、ユーザフレーム長上限値判定手段304は、現在ユーザフレームバッファ303に蓄積されているユーザフレーム長とユーザフレーム復元処理手段301に受信されたCPSパケットペイロード長を加算した合計が、ユーザフレーム長上限値判定手段304が予め保持しているユーザフレーム上限値を超過していないかを判定する。

【0142】ユーザフレーム長上限値を超過していない場合、ユーザフレーム復元処理手段301は、ステップST504において、CPSパケットペイロードをユーザフレームバッファ303にコピーする。次にユーザフレーム復元手段301は、ステップST505において、受信したUUIが27であるかなかを判定する。

【0143】この判断結果、UUIが27の場合、ステップST506において、次のCPSパケットペイロード受信を待ち、再びステップST501以降の処理を行う。

【0144】一方、UUIが27以外（0～26）の場合、ステップST507において、UUIが0もしくは26であるかを判定する。判定の結果UUIが0もしくは26である場合、ユーザフレーム復元処理手段301は、ステップST508において、ユーザフレームバッファ303内のユーザフレームをSSTED処理手段305（UUI=26の場合）もしくはユーザインタフェース手段117（UUI=0の場合）へ出力した後、ステップST509において、タイマ手段306をリセットをし、ステップST510において、受信CPSパケット計数手段308のカウンタをリセットする。

【0145】一方、ステップST507において、UUIが0もしくは26でない場合はステップST511において、受信CPSパケット計数手段308のカウンタ値とUUI値を比較する。

【0146】この比較の結果、一致する場合は、ステップST508において、ユーザフレームバッファ303内のユーザフレームをユーザインタフェース手段117（UUI=0の場合）へ出力した後、ステップST50

9～ST510の処理を行う。

【0147】一方、ステップST511において、比較の結果が一致しなかった場合はフレーム長異常とし、ステップST512において、ユーザフレームバッファ303内のデータを廃棄した後、ステップST509～ST510の処理を行う。

【0148】ステップST503の判定において、ユーザフレーム長上限値を超過している場合、ステップST513において、タイマ手段306をリセットして再起動する。

【0149】現在ユーザフレームバッファ303にあるデータは、ステップST514において、タイマ監視処理部307がタイマ満了を検出して廃棄、もしくはステップST515において、UUI=27以外のCPSパケットペイロード受信時に廃棄される。

【0150】ステップST514を実行した場合は、ステップST510において、受信CPSパケット計数手段308のカウンタをリセットする。

【0151】一方ステップST515を実行した場合は、ステップST509において、タイマ手段306をリセットした後、ステップST510において、受信CPSパケット計数手段308のカウンタをリセットする。

【0152】SSTED処理手段305は、ユーザフレームを受信すると、SSTEDトレイラ内のLIを用いてユーザフレーム長検査、CRCを用いてbit誤り検査をおこない、異常を検出した場合そのユーザフレームを廃棄する。異常を検出しなかった場合は、ユーザフレームからSSTEDトレイラを削除してユーザインタフェース手段117へ出力する。

【0153】ユーザインタフェース手段117は、ユーザフレームを受信した後、ユーザフレームからデジタル信号を抽出し、ユーザ回線を介してデータ端末機106または音声端末機107へ送信する。

【0154】このように、本実施の形態のデータ伝送装置100によれば、ユーザフレーム分割手段109で、ユーザフレームの最終データを含むCPSパケットのユーザ間表示(UUI)には、当該ユーザフレームを搭載するCPSパケット数を設定し、ユーザフレーム復元手段116でユーザフレームを復元する際に、当該ユーザフレームを復元するのに用いたCPSパケット数を計数し、ユーザフレーム組立完了時にユーザフレームの最終データを含んだCPSパケットのユーザ間表示(UUI)と計数したCPSパケット数を比較し、値が一致しない場合には当該ユーザフレームを廃棄するようにした。

【0155】これによって、ユーザフレームにSSTEDトレイラ等の付加情報を付与すること無く復元したユーザフレーム長の異常を検出することが可能で、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐ優れたデータ伝送装置が

得られる。また、ITU-T勧告I.366.1の規定する範囲内でUUIを使用するので従来のデータ伝送装置との通信も現状通り可能である。

【0156】なお、以上の説明では、簡単のため1ユーザコネクション通信の場合を例で説明したが、複数ユーザのコネクションを設定した場合にも同様に実施可能である。

【0157】また、本実施の形態では復元したユーザフレームのフレーム長異常を検出した場合に当該フレームを廃棄したが、廃棄しなくてもよい。

【0158】また、ユーザフレーム分割手段109及びユーザフレーム復元手段116をデータ伝送装置100に適用した例を説明したが、ユーザフレーム分割手段109及びユーザフレーム復元手段116を、ATMセル組立分解装置に適用してもよく、更には、移動通信システムの無線基地局装置及び無線基地局制御装置に適用してもよい。

【0159】また、1ユーザフレームを26個以上のCPSパケットによって伝送を行うときには、CPSパケット数をUUIに設定できないため効果を成さないが、1CPSパケットに45オクテット×26=1170オクテットのユーザフレームを想定した場合、SSTEDトレイラ8オクテットを付与したとしてもユーザデータに占める割合はたかだか1%未満であり、特に問題にならないと考えられる。

【0160】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ユーザフレームにSSTEDトレイラ等の付加情報を付与すること無く伝送し、この伝送データを復元時にユーザフレーム長の異常を検出することが可能ようにすることによって、ユーザデータの伝送効率の低下を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係るデータ伝送装置の構成を示すブロック図

【図2】上記実施の形態に係るデータ伝送装置におけるユーザフレーム分割手段の構成を示すブロック図

【図3】上記実施の形態に係るデータ伝送装置におけるユーザフレーム復元手段の構成を示すブロック図

【図4】上記実施の形態に係るデータ伝送装置におけるユーザフレーム分割手段の動作を説明するためのフロー図

【図5】上記実施の形態に係るデータ伝送装置におけるユーザフレーム復元手段の動作を説明するためのフロー図

【図6】AALタイプ2のレイヤ構成図

【図7】ユーザフレームからCPSパケットを組み立てるまでのフレームフォーマット図

【図8】従来のデータ伝送装置の構成を示すブロック図

【図9】従来のデータ伝送装置におけるユーザフレーム分割手段の構成を示すブロック図

【図10】従来のデータ伝送装置におけるユーザフレーム復元手段の構成を示すブロック図

【図11】従来のデータ伝送装置におけるユーザフレーム分割手段の動作を説明するためのフロー図

【図12】従来のデータ伝送装置におけるユーザフレーム復元手段の動作を説明するためのフロー図

【符号の説明】

100 データ伝送装置

101 データ送信装置

102 データ受信装置

103 伝送路

104, 106 データ端末機

105, 107 音声端末機

108, 117 ユーザインタフェース手段

109 ユーザフレーム分割手段

110 CPSパケット組立手段

112, 113 回線終端手段

114 ATMセル分解手段

115 CPSパケット分解手段

116 ユーザフレーム復元手段

201 SSTDトレイラ付与手段

202 ユーザフレーム分割処理手段

203 ユーザフレーム長判定手段

204 UUI設定手段

205 分割数保持手段

301 ユーザフレーム復元処理手段

10 303 ユーザフレームバッファ

304 ユーザフレーム長上限値判定手段

305 SSTD処理手段

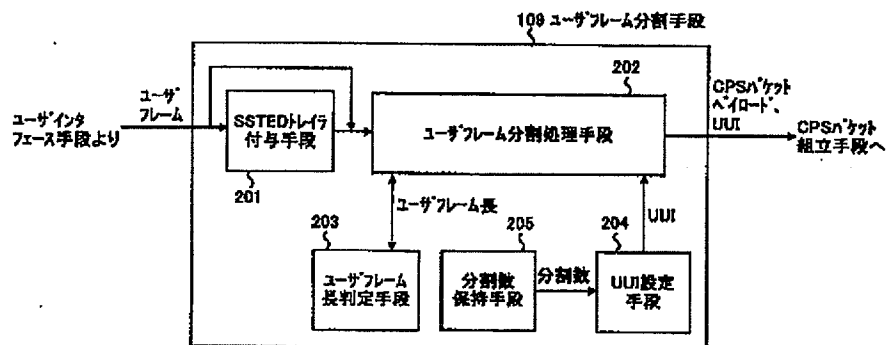
306 タイマ手段

307 タイマ監視手段

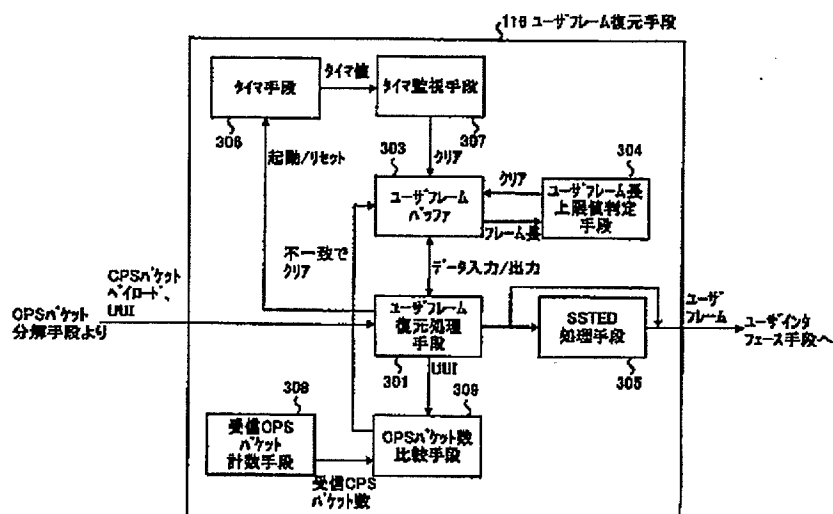
308 受信CPSパケット計数手段

309 CPSパケット数比較手段

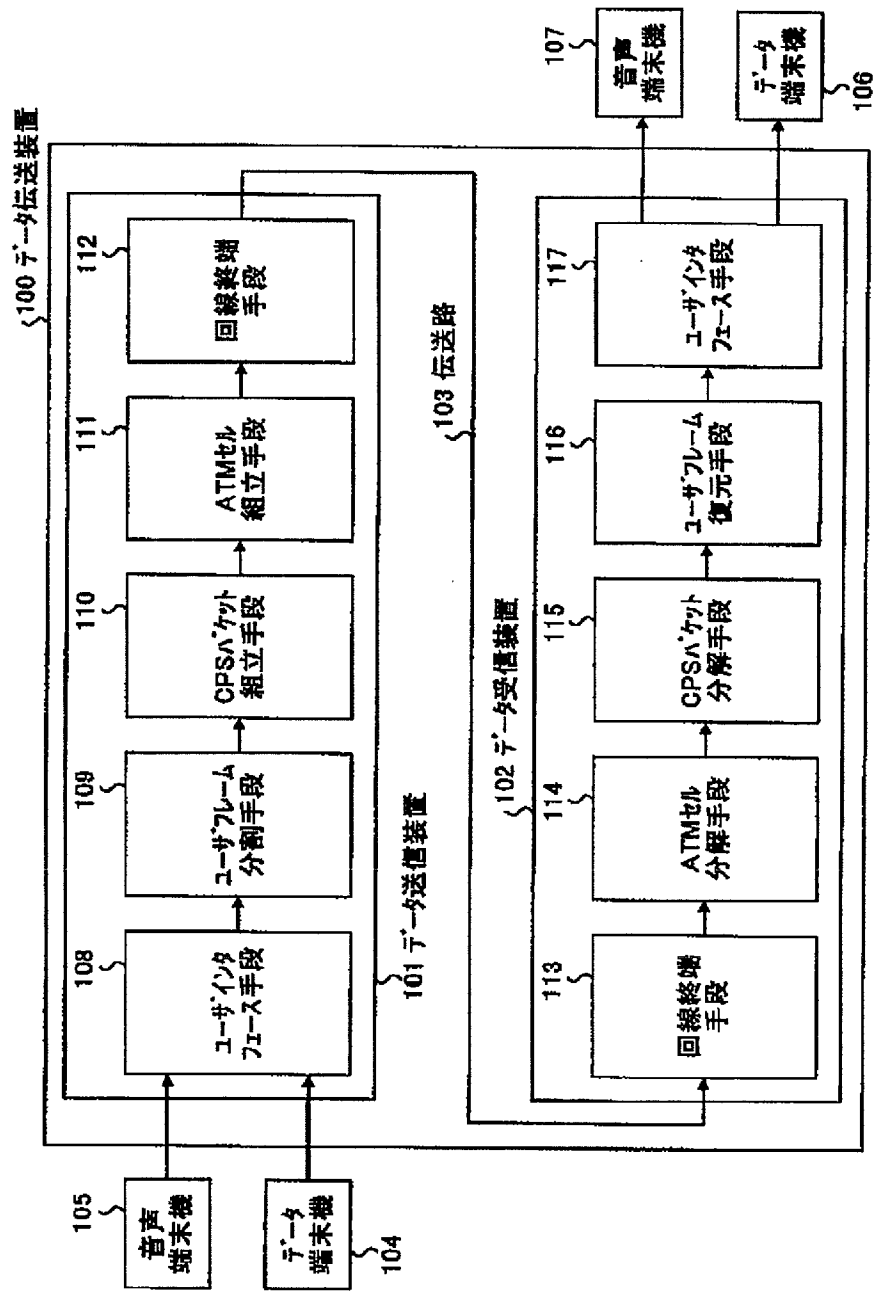
【図2】



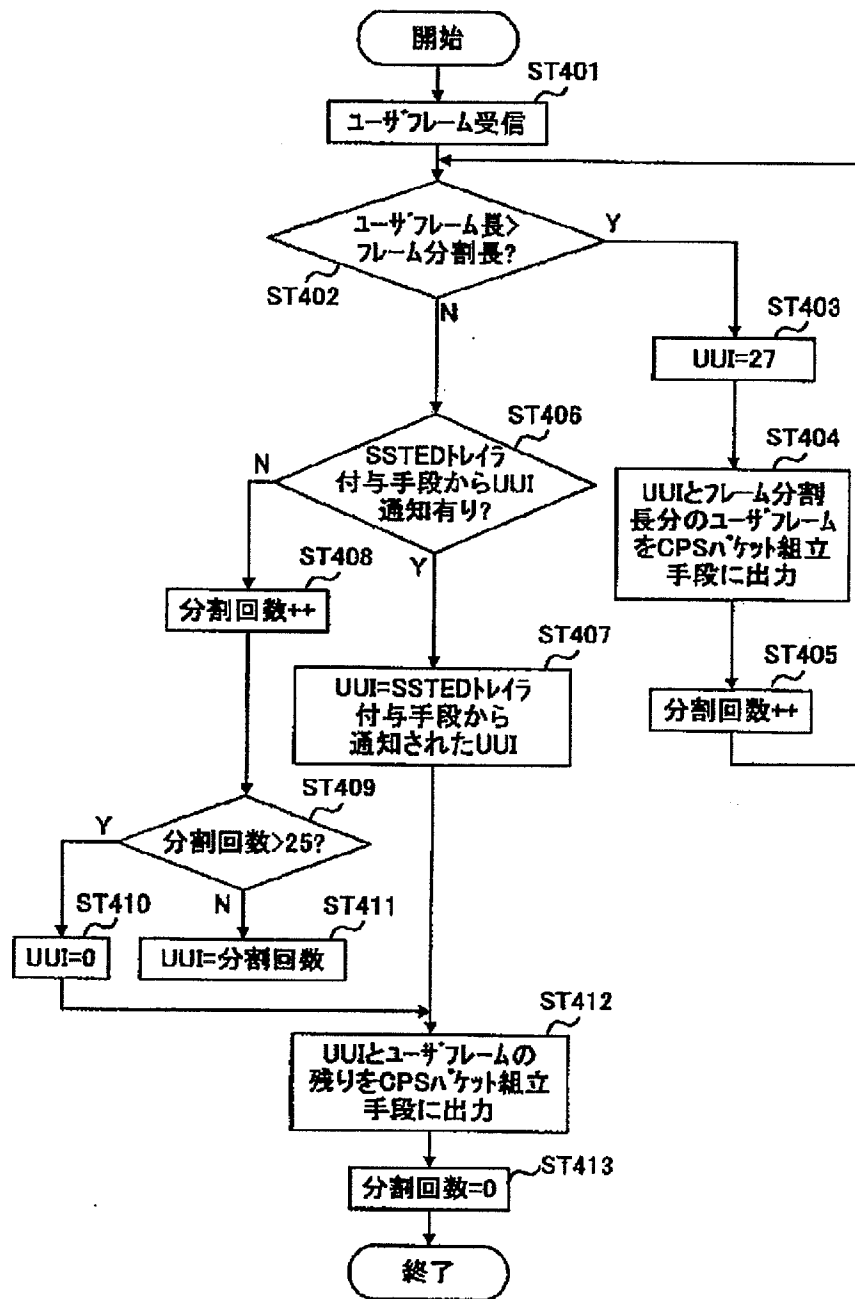
【図3】



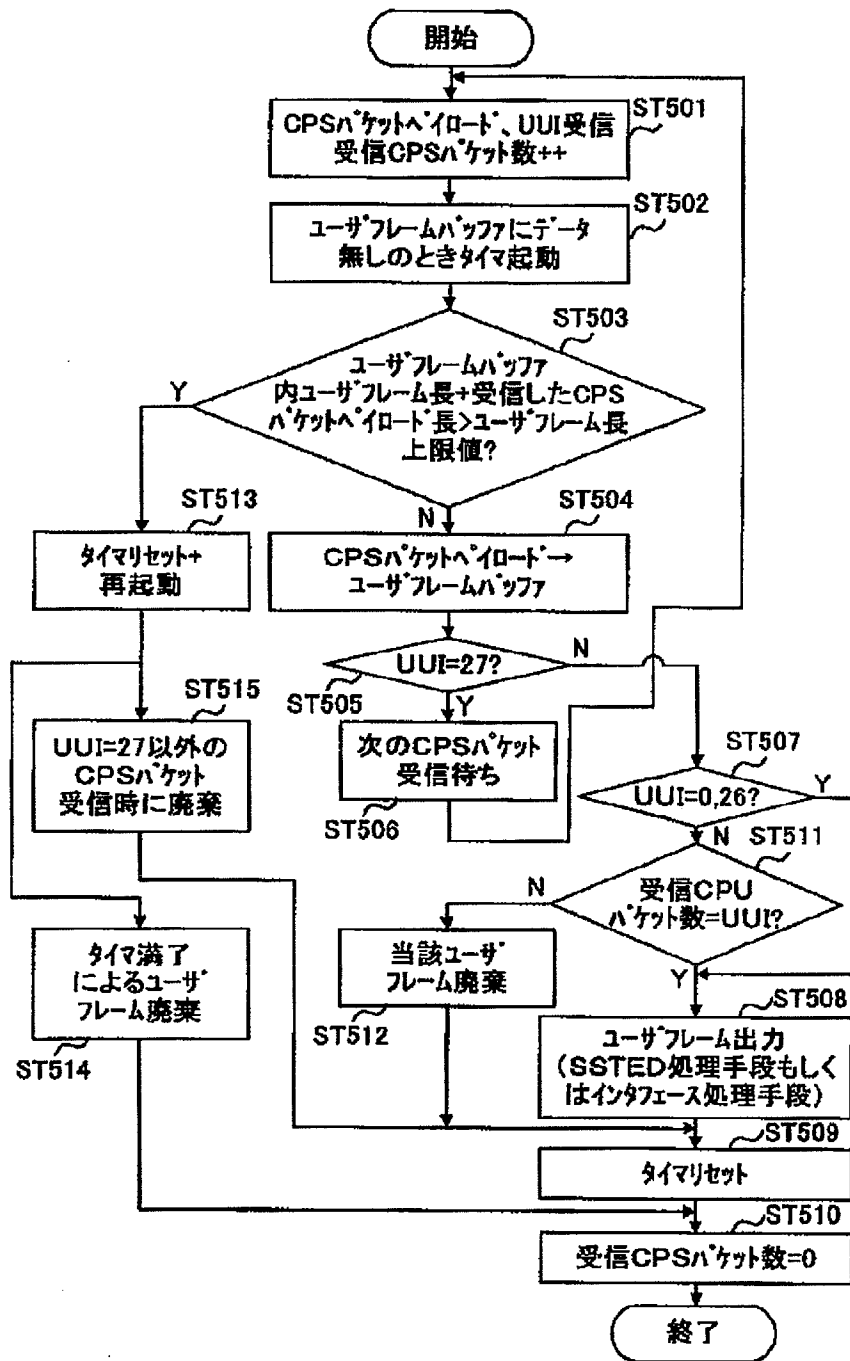
【図1】



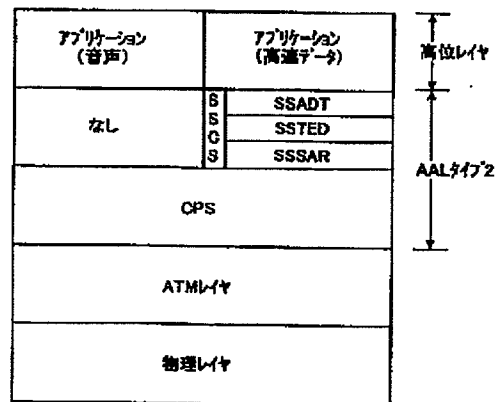
【図4】



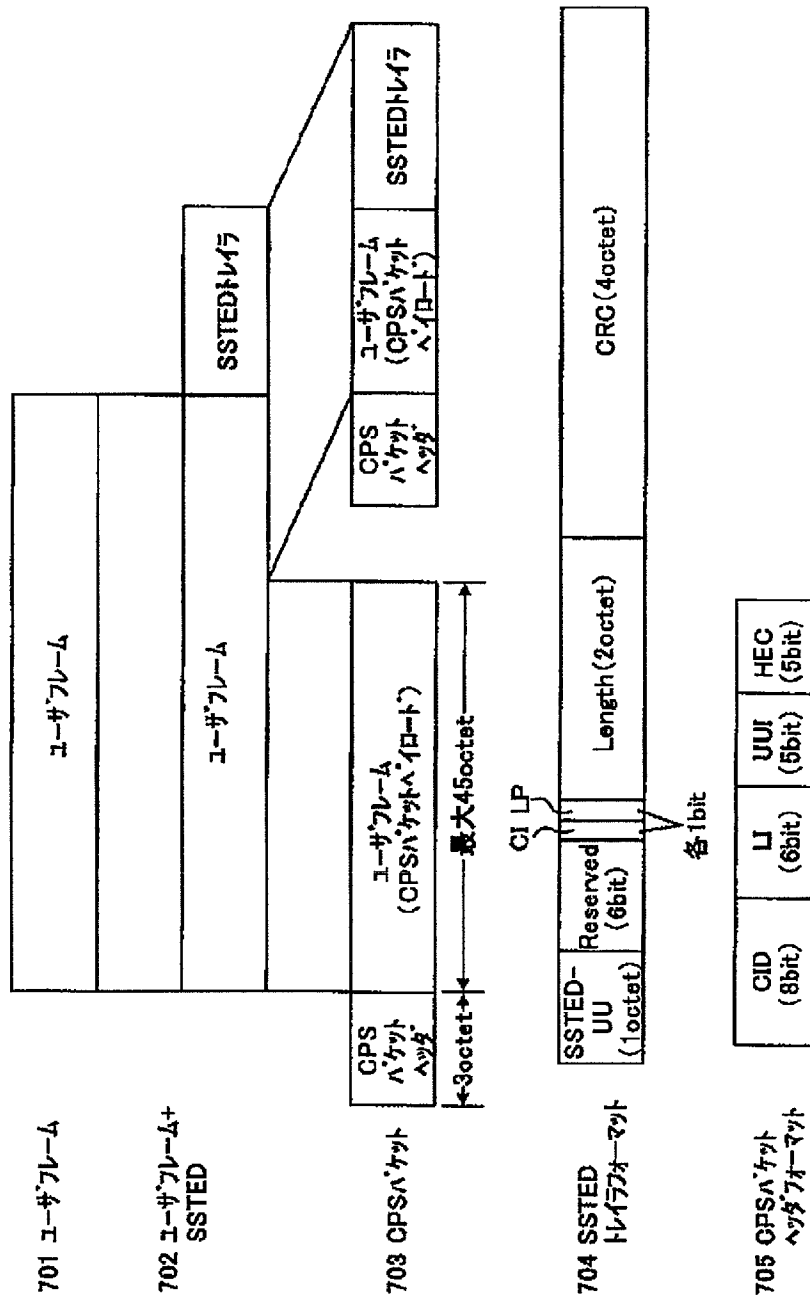
【図5】



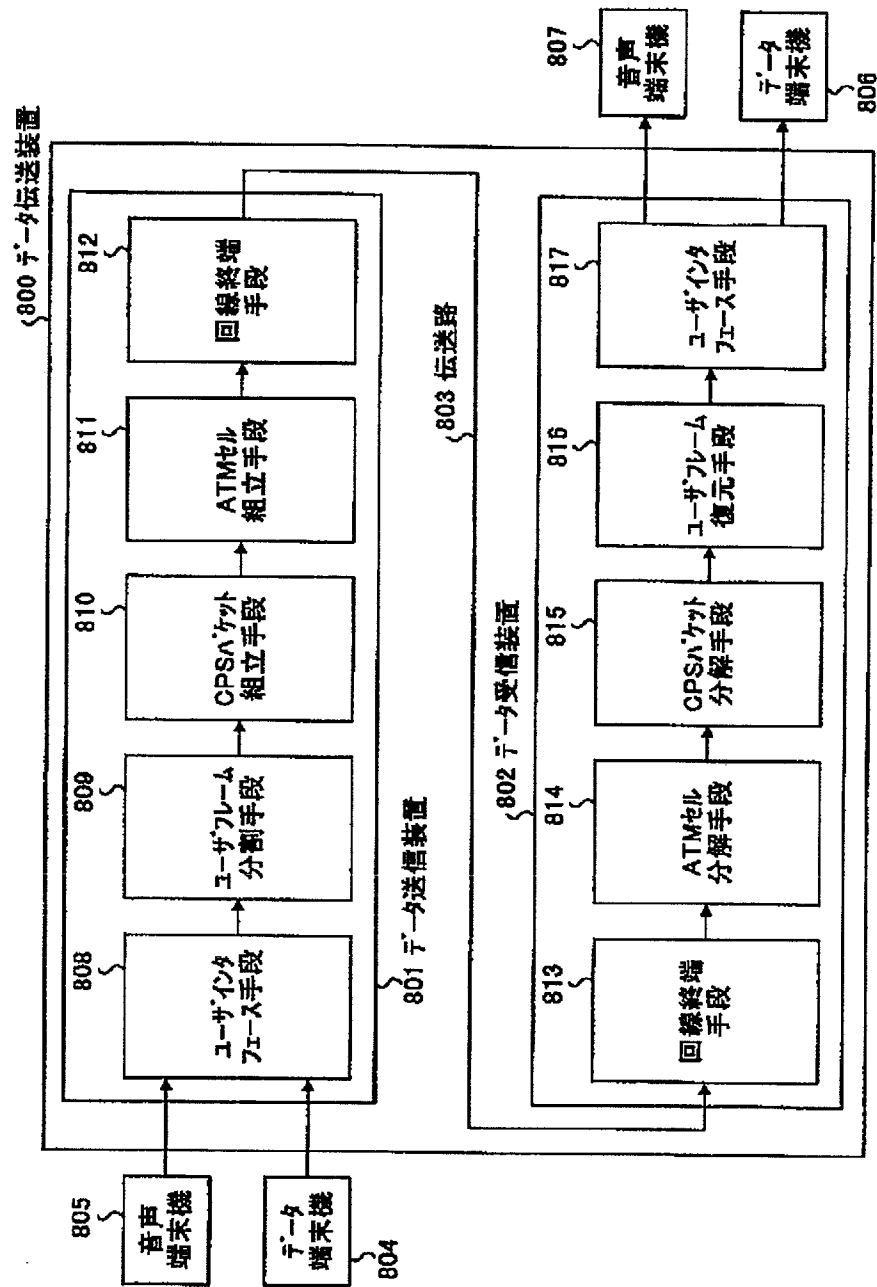
【図6】



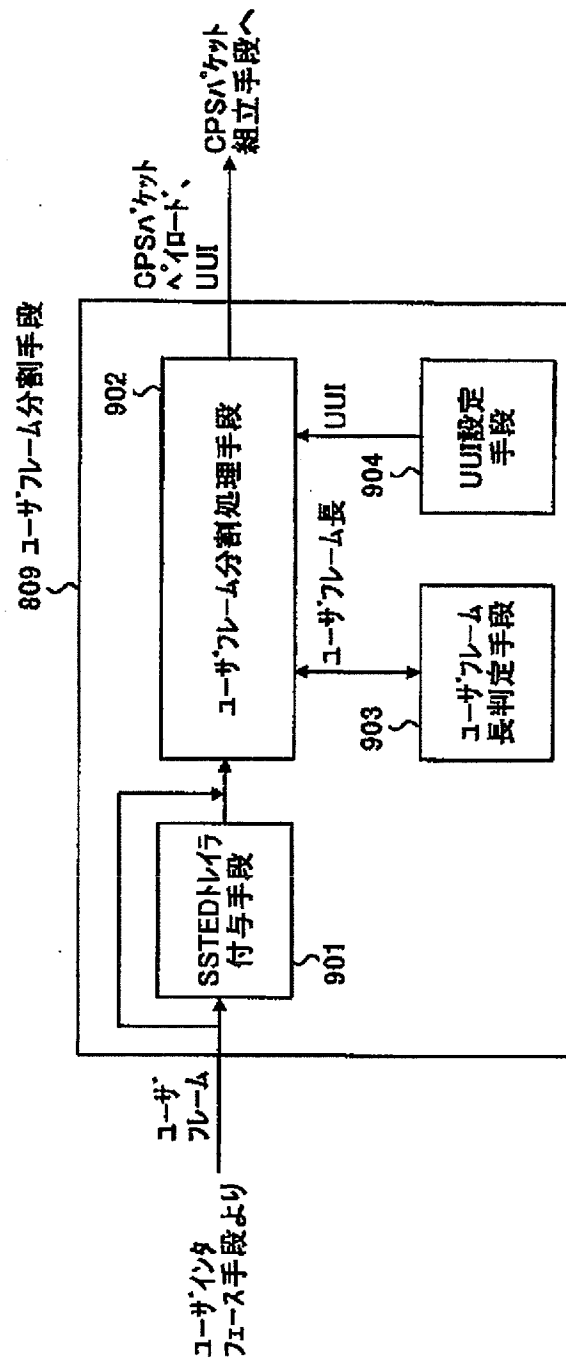
【図7】



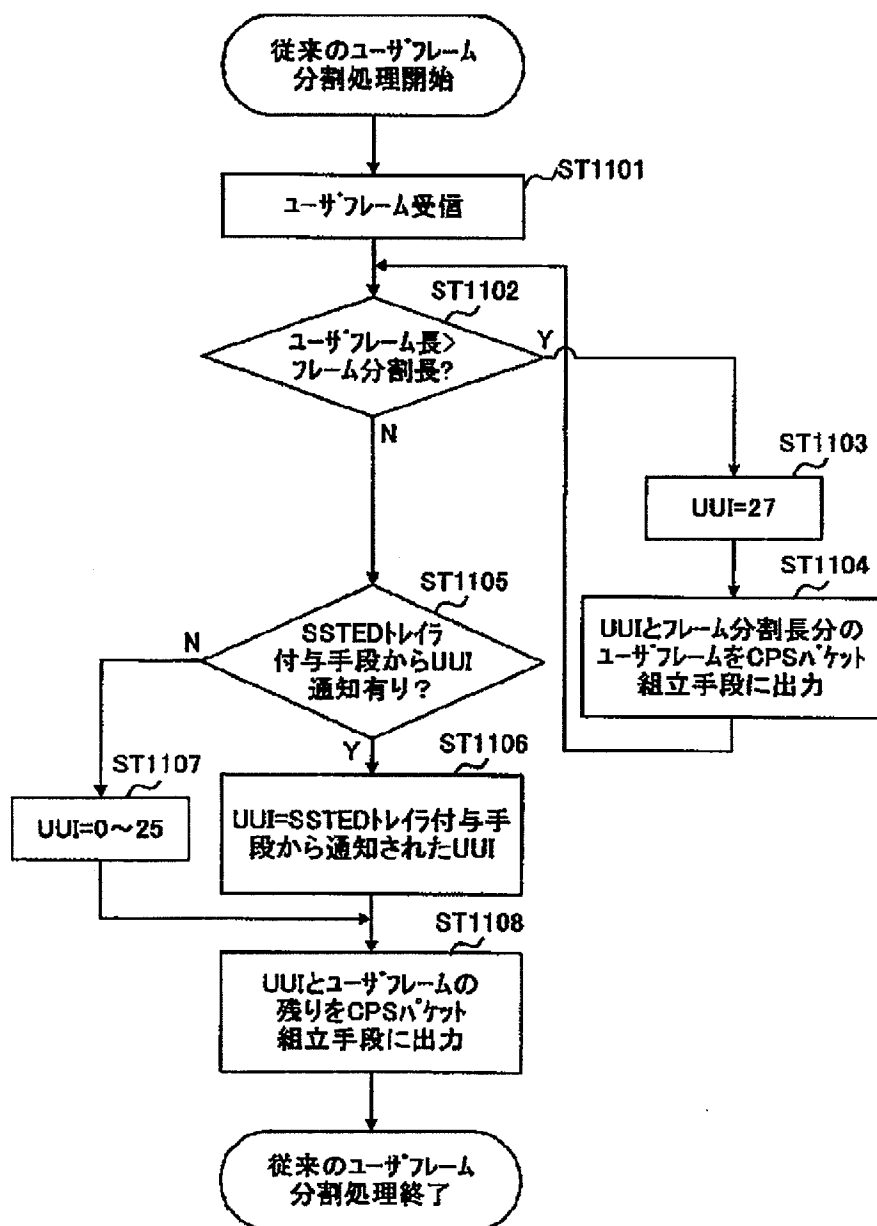
【図8】



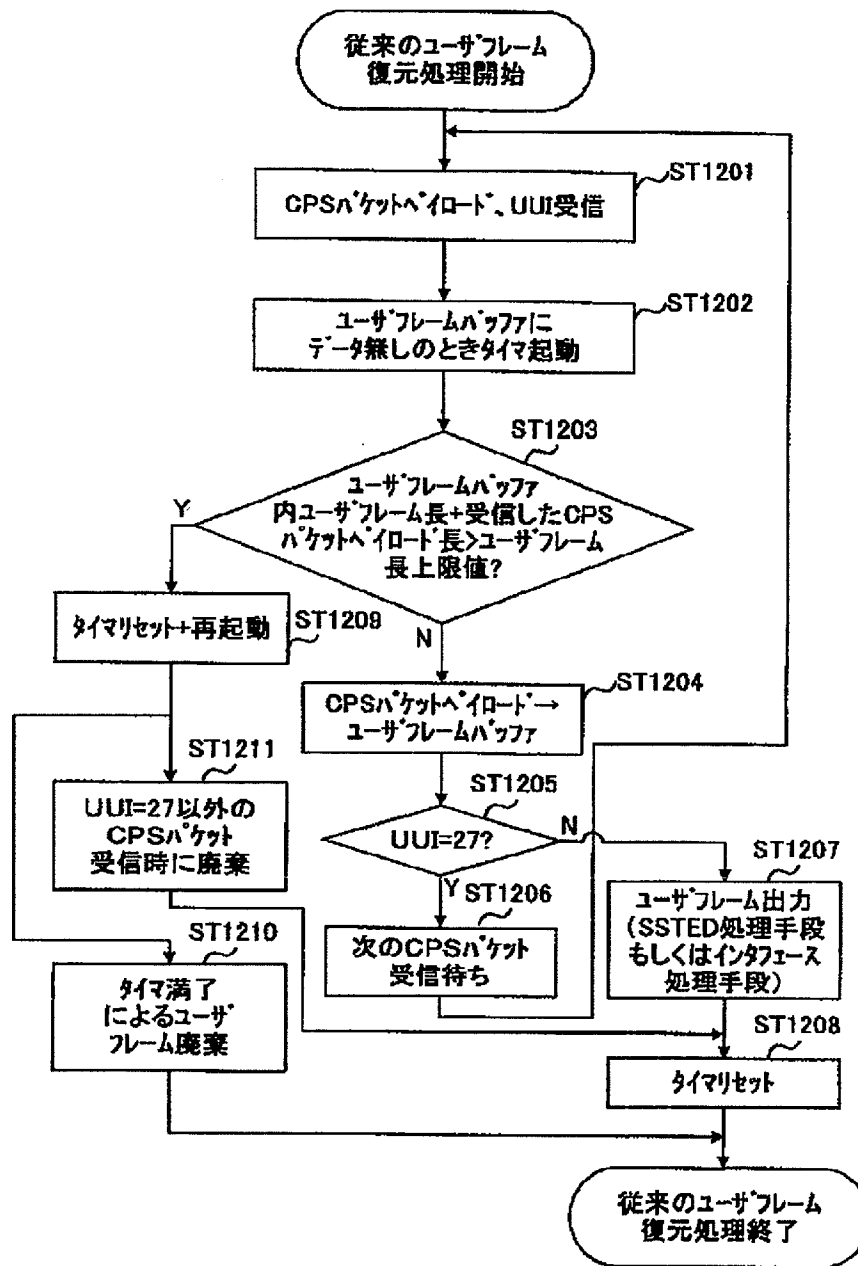
【図9】



【図11】



【図12】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷

識別記号

F I

マークコード (参考)

H 0 4 L 13/00

3 0 9 Z

Fターム(参考) 5K030 GA01 GA12 HA10 HB11 HB21
JA06 JT01 JT04 KA04 KA06
MB09 MB11 MB13
5K033 AA01 CB03 CC01 DA13 DA19
DB16 DB17
5K034 AA01 AA04 AA05 CC02 CC05
DD01 EE11 FF09 FF10 HH01
HH07 HH10 HH12 HH14 HH37
HH65 LL07 MM01 MM25 MM39
TT01 TT02
5K067 AA13 BB21 CC08 DD11 EE02
EE10 EE71 GG03
9A001 BB04 CC05 FF05 LL02 LL06